

# Confirming Our Faith in God

---

神に対する私たちの信仰の確立

B. R. ヒックス



Christ Gospel Churches Int'l., Inc.  
P. O. Box 786  
Jeffersonville, Indiana 47130



## 目次

章	ページ
1 神が生きておられることはどのようにしてわかるのか...9	
2 神はどのようなお方なのか.....21	
3 私たちの神の御名.....84	
4 神に対する私たちの責任.....121	
付 録.....123	



## 訳 注

本文中で下線が引いてある部分は、原著者が斜体字を使用している部分である。



## 序

神というのは、永遠で、目に見えず、無限で、理解を越えた存在に対する名前です。神は万物の創造主であり、その全能の御力と、その全知の知恵と悟りと知識により、ご自分の創造したものを治め、支配し、統治しておられます。私たちの礼拝を受けるにふさわしい唯一のお方です。神は、その聖さと公平さと真実さと善意において、不変のお方です。とりわけ、神は目に見えるものでも、目に見えないものでも、全ての存在の初めであり、父です。神は昔も、今も万物の創造主だからです。

神が宇宙における最高の存在であるので、その被造物として、私たちは心の最も重要な部分を、彼にささげる義務があります。神は、被造物全体の、また個々の被造物に対しての円、すなわちその車輪の中心であり、神のその円周は至るところを占めています。ですから人が神を拒む時、神の姿とイメージに似せて形造られた、自分の最も高貴な部分、中心的な部分、つまり魂と霊を拒む事になるのです。自分は無神論者だとか、懐疑論者とか言う人も、神の永遠の現実的存在から逃れることはできません。神があまりにも偉大なので、人はいまだに神を捜し求めています。神が計り知れないほどすばらしいお方なので、人はその被造物を通して無数の方法で表されている神を発見し続けているのです。しかし、人が神の存在に気づくようにと人類に与えられた数え切れない証しにもかかわらず、ある人は人生の嵐で船が失敗と失望という暗礁に乗り上げ、難破するまで、神を個人的に捜し求めようとしません。

神を知ることは私たちのすべての望みの目的であるべきです。神の愛は私たちのすべての行動の最終目的であるべきです。神との関係において一体となることは、私たちの愛情のすべての目的であるべきなのです。罪に対する神の勝利の力が私たちの魂の支配力であるべきなのです。個人として私たちはこれらの目標をすべて達成することができるのです。なぜなら

ば、私たちの神は人類に対するご自身の啓示で満ちているからです。神の  
実在性や力に関する数多くの証拠を受け入れ信じることによって、私たち  
はその被造物を愛して世話をしてくださる神の現実性について、堅く動か  
されることのない信仰を持つことができるのです。

著者



# 神に対する私たちの信仰の確立

## 第 1 章

### 神が生きておられることは どのようにしてわかるのか

人間は計り知れない神を理解しようとして、その限られた思索の制限の中で求めます。そのため非常に多くの人々が、神について誤った考えを持ち、神そのものの存在をさえ疑っている人が多くいます。無神論者は「神はいない。」と言います。懐疑論者は「おそらく神はいるのだろうが、私は神のことは何も知らない。」と言うでしょう。異教徒は様々な神々を信じています。彼らは自分の想像によって、様々な醜く奇怪な像を造り、それを神として拝んでいます。ある人々は、神とは単なる自然とか、影響力、非人間的な考え、ある力、精神的なささえ、あるいは「空の上の老人」と呼ばれるあいまいな存在であると考えています。

人間が神を細切れに分析することは、6人の盲人が初めて象を取り囲んで、象について規定しようとした話に似ています。1人が象の腹にさわって、象は壁のようだと言い、次の人は牙にさわって、象は槍のようだと言いました。3番目の人は鼻を調べて、象は蛇に似ていると表現しました。4番目の人は、おそらく象は木に似ているだろうと言いました。それは象の荒いごわごわした木の皮のような膝の皮にさわったからでした。5番目の人は象の耳にさわって、象はうちわの形をしていると言いました。最後の人は象のしっぽにさわって、この生き物はずっと縄に似ていると確信しました。つまり、この人たちは自分の目で見ることができなかつたので、象の本当の姿を思い描くことができなかったのです。残念なことに、神とは誰のことで、またどのようなお方であるかについては、この6人の盲人以上の考えを持っている人は少ないのです。有限の存在である人間は、神のみこと

ばにある真理を捜し求めること以外には、永遠で、無限の神性である神を説明することは決してできません。

人は神について無知でいる必要はありません。というのは、神のご性質はご自分を啓示することだからです。さらに、神は人類にご自分を自ら進んで知らせてくださるのです。神が個人的にご自身を解き明かしてくださるので、私たちに神がはっきりと、明確にわかるのです。神は人間に理解させるために十分な光と真理を与えてくださいました。私たちの罪は、真理を見出すことに興味を示さず、求めようとしません。人間は神を求めません。反対に、神が人を捜し求めてくださっているのです。

それは、次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。ひとりもいない。悟りのある人はいない。神を求める人はいない。」  
(0-7 3:10,11)

悪者どもは、母の胎を出たときから、踏み迷い、偽りを言う者どもは、生まれたときからさまよっている。(詩篇 58:3)

しかし、彼らは神に向かって言う。「私たちから離れよ。私たちは、あなたの道を知りたくない。(ヨブ 21:14)

人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。  
(ルカ 19:10)

もし神が存在しないなら、人間が神の存在を否定すること自体無駄になります。もし神が存在しないなら、人間が真の神にとって代わる偶像を造っていること自体無駄になります。もし神が存在しないなら、人間が神は死んだのだと主張していること自体無駄になります。神はいないと大声で叫んでいる反対者たちは、自分自身の内にある良心の中の神の声を静ませようとしているのです。同様に数多くの代用品としての偶像を造っている人も、自分の良心の中にある神の法という、計り知れない声を静めようとしているのです。彼らは「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽りの証言をしてはならない。隣人の物を欲しがってはならない。」という聖書のことばに耳を傾けたくないのです。これらの人